



### 新鮮な野菜を子ども食堂に

#### 農産物品評会

11月26日に市内の農家が育てた野菜などを対象に農産物品評会が行われ、逸品ぞろいの中から市長賞などが選ばれました。出品された農産物は、市内の子ども食堂に寄付されました。農産物を受け取った子ども食堂の運営者は「いただいた農産物は無駄なく使います」と喜んでいました。



### 幼稚園児が大学ラグビー部員と交流

12月2日、摂南大学でラグビー部と市立北幼稚園の交流会がありました。園児たちはパスやボールを持って相手をかわすなど基本の練習を行い、ゲーム形式のタグラグビーでは大学生の選手を相手にトライを決めていました。

交流を終えた園児は「友だちにパスするのが楽しかった」、ラグビー部主務の秦陽太選手は「久しぶりに子どもたちと触れ合えた。ラグビーの楽しさを知ってもらえたらうれしい」と話していました。



### 高倉地区に巨大な寅が出現

#### 寅の持つ力強さで平穏な世の中に

毎年恒例、高倉水利組合とんど保存会の「干支（えと）とんど」。保存会のメンバー

30人が延べ5日間かけて全長4.1m、高さ2.1mの「寅（とら）」を制作しました。今年は初めて女性12人が制作に参加し、活気があふれていました。

「干支とんど」は1月中旬までライトアップされています。また、市役所にもミニとんどが展示されています。



### 寝屋川もんの野菜がいっぱい！

#### 2年ぶりの農業まつり

新型コロナの影響で2年ぶりの開催となった農業まつり。約1,200人が詰め掛け、にぎわいを見せました。

市内農家が育てた野菜や果物などを求めて開場前から多くの人々が列を作りました。午前10時頃にはほとんどの野菜が売り切れ。野菜を購入した松本さんは「新鮮な野菜が安く買えてうれしい。今夜はお鍋にしようかな」と話してくれました。



### 地域を光で癒やします

コロナ禍の子どもたちに笑顔届けようと、堀溝校区地域協働協議会が高さ2.5mのツリーをペットボトルで制作（写真左）。市立堀溝小学校に展示され、児童たちは「きれい」「大きくてすごい」と大喜びでした。

東北コミュニティセンターでは、第五・国松緑丘・三井・宇谷の地域協働協議会が合同で1月下旬までイルミネーションを実施（写真右）。冬の澄み切った夜空を彩っています。



### 光のアートが校舎を包む

香里ヌヴェール学院が宝塚大学と共催で「光のアートで校舎を包もうプロジェクト〜Light Up Nevers〜」をオンライン開催しました。

小・中学生、高校生による吹奏楽部の演奏や合唱団の歌声が響き渡る中、「デジタル掛け軸」と呼ばれる光のアートで校舎に色彩豊かな幾何学模様などが映し出され、幻想的な景色が広がりました。プロジェクトリーダーの大森さんは「ゆくゆくは、地域の人に親しまれる市の恒例行事にしていきたい」と語りました。



### 楽しく防災知識をマスター！

#### 摂南大学、大利商店街振興組合と共同で開催

タブレット端末を使って防災知識を学ぶ「防災まちあるき」が大利商店街で行われました。

タブレット上の地図に表示された場所に行き、ドラゴンが出題する防災クイズに挑戦。答えながらまちを探索し、防災について学んでいきます。摂南大学の新井さんは「コロナ禍でも家族で遊べる行事をしたいと思っていました。『ゲーム感覚で防災について楽しく学べた』などの声を聞いて、貴重な経験となりました」と話しました。



### 淀川の河川敷でソバの花

#### 実は苦くて食用向きません！

薬草としても知られるシャクチリソバが淀川の河川敷で可憐な花を咲かせました。

中国のヒマラヤ地方が原産のそばの仲間。もともと明治初期に薬用として持ち込まれたそうですが、野生化して全国に広がりました。

淀川の河原でも大きさが5mmほどのかわいい花をいっぱい付けたシャクチリソバが群生。11月頃からそば特有の角ばった実を付けていますが、草花に詳しい愛好家は「実は苦くて食用にはあまり向きません」と話しています。